

五 ピックニックでびっくり

今日は、楽しみにしていたピクニックの日です。黄鬼くんは、赤鬼くと青鬼くん、桃ちやんとカミナリくん、それにもうひとり、金太郎の金ちゃんと近くの山へ登りました。

山のとっぺんに着くと、遠い海が見わたせてとってもきれい。ところが、そのときです。

「あっ、クマが出た！」

黄鬼くんのさげび声に、みんな、びっくりして木によじ登りました。下を見ると、二匹のクマの親子が、黄鬼くんたちのおべんとうやおかしの残りをあさっています。

「どうしよう？あんたたち、鬼なんだから、クマを追いはらってよ」

あいかわらず、桃ちゃんは、黄鬼くんたちにムチャなことを言います。

「そうだ、金ちゃんならクマに勝てるだろ？だって、金太郎なんだから」

赤鬼くんが、そういつて桃ちゃんをかわすと、金ちゃんは、ブンブンと首をふりました。

「それは、物語の中の話だよ。本物のクマに勝てるはずないじゃないか」

「じゃあ、カミナリくんに頼もう。クマにカミナリをぶつけてやるんだ」

今度は、青鬼くんがいました。

「だめだよ。そんなことしたら、クマが死んじゃうよ。かわいそうだよ」とカミナリくん。

すると、桃ちゃんが「しかたないわね！」と言って、腰のキビだんごを全部クマの親子に投げてあげました。クマの親子は大喜び。キビだんごをおいしそうに平らげると、どこかへ

行ってしまいました。

さすがは、桃ちゃんです。キビだんごでクマまで家来にしてしまうなんて。

「きっと、おなががすいてたんだね。山が少なくなつて、食べ物がたりないんだよ」

黄鬼くんがそういうと、みんな、うんうんとうなずきました。

そうですね。これからは、クマの親子が食べるものにこまらないように、もっと自然を残

してあげなければいけませんね。